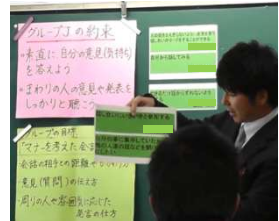


**熊本県立黒石原支援学校**

**はじめに**

中学部 課程（ 課程は中学校の教育課程に準ずる指導、 課程は知的障がい特別支援学校の教育課程に準じて教科別の指導及び各教科等を合わせた指導を行っている）では、A～Dの4つのグループに分かれて、グループ別自立活動（GJ）を行っている。それぞれのグループで生徒の実態に合わせて、メンバーと話をしてたり聞いたりする活動や、コミュニケーションのマナー・ルール、コミュニケーションスキル等の学習を実施している。また、指導についてはチームティーチングで行い、主たる授業者（T1）はテーマによって替えている。



各グループでは、話し合い活動で意識すべきことやルールを毎回の授業で確認している。また、毎学期に生徒それぞれの活動の目標も設定している。

**学習の取組**

今回紹介するBグループは、中学1年生～3年生の5人で構成している。グループ全体の目標を、「マナーを考えた会話ができる」とし、目標達成のために相手との距離、関わり方や場の雰囲気に応じた発言の仕方等ができるよう、テーマ選びや対話の方法について教師間で話し合いを重ねた。



学習の内容として、「5人で話そう」「話し合って決めよう」「話し合ったことを伝えよう」「ロールプレイをしよう」と題材を段階的に設定し、授業の最後に振り返りシートを使って振り返りを行い、発表し合うことによって、分かったことやできたこと（成長）を実感できるようにした。

「話し合って決めよう」では、「非常用持ち出し袋に何を入れる？」というテーマで20個のリストから5つの道具を選ぶという活動を、個人・小グループ 全体と集団の大きさを変えて話し合いを行った。個人で決めることはスムーズにできたが、複数で話し合って決めるとなると、簡単にはいかなかった。道具を1つ決めるにしても、生徒が実際に経験したことを基に話したり、自分の性格や特性を考慮して道具を選んだりするなど実に多様で、集団が大きくなるにつれて意見をまとめるための話し合いの内容が深まっていく様子が見られた。この取組では「考える時間を十分に確保する」など次の授業で改善できるよう1時間の授業ごとに各生徒の発言や活動の様子を記録していった。



**まとめ**

生徒の発言や振り返りの発表内容において変容が現われたことを教師が分析し共通理解したことで、次の授業の前に授業の進め方や押さえるべきポイントを把握することができ、T1と同じ目線でT2～T4の教師が各生徒に対して目標に近づけるような指導ができた。授業後の生徒の感想では、「高校生になっても学んだことを生かしていきたい」「今まで人と話すときは自分のことばかりだったけど、GJを通して相手のことを考えて話したり聞いたりすることができるようになった」等が挙げられた。生徒の生活改善に向けた意識の向上を図ることができたと考えられる。今後も更に生徒の実態を的確に把握し実生活に生かせるよう実践を重ねていきたい。なお、今年度は、県立教育センターの研究協力校として特別支援学校の自立活動について指導をいただくとともに、2月16日（金）の研究発表会で発表させていただいた。